

安全の手引き
(緊急事態に備えた心構え)

2016年12月20日
在フィンランド日本国大使館

目次

- I. はじめに
- II. 防犯の手引き
 - 1. 防犯の基本的な心構え
 - 2. フィンランドにおける犯罪発生状況及び日本人の被害事例
 - 3. 防犯のための具体的な注意事項
 - 4. 交通事情及び事故対策
 - 5. 原発事情及び事故対策
 - 6. テロ、誘拐等対策
 - 7. 緊急連絡先
 - 8. いざというときのためのフィンランド語フレーズ
- III. 緊急事態対処マニュアル
 - 1. 平素の準備と心構え
 - 2. 緊急時の行動
 - 3. 緊急事態に備えてのチェックリスト
- IV. おわりに

本文

I. はじめに

「森と湖の国」フィンランドは、自然豊かで静かな国です。ムーミンやサンタクロース、オーロラなどから「癒し」、「幻想」などの良いイメージをお持ちの方も多いと思いますが、残念ながら犯罪や危険と無縁ではありません。

この手引きは、在留邦人や旅行者の皆様が安全に生活するための基礎的な情報を提供することを目的として作成しました。この手引きが、皆様の安全対策の一助となれば幸いです。

II. 防犯の手引き

1. 防犯の基本的な心構え

安全の三原則

その1 用心すること

(日頃から治安情報等の収集に努めること)

その2 目立ち過ぎないこと

(行動, 財産等を知られないこと)

その3 平静さを保つこと

(不測の事態にも決して慌てないこと)

2. フィンランドにおける犯罪発生状況及び日本人の被害事例

○フィンランドにおける最近の犯罪発生状況 (出典: フィンランド統計局)

犯罪形態/年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
窃盗	151,243	138,750	141,395	143,141	138,295
強盗	1,622	1,616	1,524	1,689	1,550
殺人	114	89	95	101	96
暴行	40,171	38,231	35,515	32,928	33,874
強姦	1,039	1,009	975	1,009	1,052
飲酒運転	21,459	19,134	17,994	17,608	17,638
覚せい剤・麻薬等	20,394	20,102	22,656	21,781	23,400
合計 (上記犯罪以外を含む)	458,251	425,421	424,786	417,898	413,233

○日本人の被害事例とその対応策

日本人が遭う被害の大半は、置き引きやスリなどの窃盗被害ですが、その多くは、防犯意識と対応策によって未然に防止できると言えます。

置き引き事例

レストランにおいて、座席にカバンを置いたまま、料理を取りに行った。座席に戻ったとき、カバンが窃取 (置き引き) されていることに気付いた。

これは、毎年、旅行者の被害として一番多い事例です。レストランのほか、電車の中やお土産屋等においても発生しています。荷物からは絶対に目を離さ

ないこと、貴重品は肌身離さず持つておくことが大事です。

スリ事例

マーケット広場において、リュックサックを背負いながら買い物していた。ホテルに戻ってリュックサックを開けたとき、中身（財布、カメラ等）が窃取（スリ）されていることに気付いた。

これも、多発している事例です。混雑する場所においては、荷物は背負わずに体の正面で持つことが効果的です。

詐欺事例

街中で見知らぬ人に声を掛けられた。優しくそうな人だったので安心して会話を楽しんでいたところ、しばらくしてお金を貸してほしいと頼まれた。話振りなどから信用できると判断し、連絡先を交換した上でお金を渡したが、その後、連絡は取れず、お金を詐取されたことに気付いた。

近年、ヨーロッパ各地で発生しており、特に日本人が狙われやすい事例です。いかなるときも用心を怠らないこと、見知らぬ人を信用しないことが大事です。

3. 防犯のための具体的な注意事項

当地で犯罪被害に遭わないため、以下のことに注意してください。

(1) 住居における注意事項

- ・昼夜を問わず、日頃から確実な施錠を心掛けること。
- ・訪問者は必ずインターホン等で確認し、未確認のままドアを開けないこと。
- ・日頃から住居周辺の不審な車や人物に気を配ること。不審者等を発見の際には、直接対処せず、速やかに警察に通報すること。
- ・差出人等不明の郵便物はむやみに開封しないこと。
- ・旅行などにより住居を長期不在にする場合は、信頼できる友人や隣人に声を掛けておくこと。郵便箱に郵便物が溜まったままや、庭の草や雪に手入れが見られないままの場合には、空き巣に狙われやすい。

(住居を選ぶ際における注意事項)

- ・周辺の治安状況が良いこと。
- ・敷地内及び周辺に十分な夜間照明があること。（フィンランドでは、首都

圏を含む南部においても、冬季は午後3時ころから翌午前9時ころまで夜間の状態になります。)

- ・車庫（駐車場）が敷地内にあること。

（2）外出時における注意事項

- ・目立つ恰好、華美な服装、豪華な装飾品の着用は極力避けること。
- ・大金を持ち歩かないこと。
- ・不審な人物の接近や尾行に気を付けること。
- ・酔っ払いに近づかないこと。
- ・夜間に単独で外出しないこと。
- ・冬季に外出する際は、車に轢かれないよう上着にリフレクター（反射板）を着けること。
- ・自動車を駐車する際には、必ず、ドアをロックし、バッグなどを車外から見える場所に置かないこと。

（3）その他の注意事項

- ・貴重品、自転車等には、可能な限り、消すことが難しい目印等を付けること。これにより、発見されたときに手元に戻る可能性が増え、また、転売されることが難しくなる。

4. 交通事情及び事故対策

当地の交通事情は日本と異なりますので、以下のことに注意してください。

（1）交通事情

- ・フィンランドにおけるドライバーのマナーは必ずしも良くない。
- ・信号機のない横断歩道では歩行者優先。
- ・優先道路を除き、信号機のない交差点では右側から進入してくる車両に優先権がある。
- ・バスが停留所から走行車線に入る際にはバスに優先権がある。
- ・トラム（路面電車）は常に優先。トラムの車線と車の車線が重なる場所があるので、運転中はトラムの走行にも注意を払う必要がある。
- ・一年を通じて、運転中はヘッドライトの点灯義務がある。
- ・冬季（12月～2月）は、冬用タイヤの着用が義務付けられている。

（2）事故対策

- ・車を運転する際には、車間距離を十分に取り、周囲の交通状況にも注意

- する。
- ・フィンランドは全体的に道路が広く、長い直線道路も多いため、スピード超過による事故に注意が必要。
 - ・冬季は、気温が低く、日照時間が短いため、路面が凍結したり、照明が十分でない時間帯があるので、特に歩行者には細心の注意が必要
 - ・鹿などの大型動物との接触による死亡事故も発生しているので、注意標識がある場所での運転は注意が必要。

5. 原発事情及び事故対策

(1) 原発事情

現在、フィンランド国内においては、4基（2箇所）の原子力発電所が稼働しており、原子力安全センター（STUK）が24時間監視を続けています。

フィンランド各地にはシェルター（VAESTONSUOJA）が設置されていますので、在留邦人の皆様は、あらかじめ居住地区のシェルターについて、ご確認ください。また下記もご参考にしてください。

<http://www.hel.fi/www/pela/en/Civil+defence/>

<https://servicemap.hel.fi/unit?service=26206>

(2) 事故対策

- ・原子力発電所付近にお住まいの方は、万一の事故に備え、10日分の食料や水、携帯ラジオ、予備電池、放射性ヨウ素を排出するためのヨード錠剤等の医薬品を用意することをお勧めします。ヨード錠剤（JODI）は、薬局にて購入可能です。
- ・非常事態に際しては、サイレンにより避難指示等を受けることがあります。指示に従って速やかに行動し、自宅等に待機する場合には、ドア、窓、換気扇等を確実に施錠し、エアコン等の電源も切ってください。また、非常事態においては、極力、電話回線の使用を控え、情報収集にはラジオをご利用ください。

NHK ワールドラジオ日本の周波数（ヨーロッパ）

17660kHz（グリニッジ標準時5：00－5：30、英語のみ）

6. テロ、誘拐等対策

フィンランドにおいては、現在のところ、日本人や日系企業に対するテロ、誘拐等の標的となる具体的な脅威は見当たりませんが、これらの事案に巻き込まれないためには、日頃から用心や警戒を怠らないことが重要です。

また、子どもの親権問題として、一方の親が他方の親に無断で子どもを国外に連れ出す行為が国際的に問題となっておりますところ、フィンランドにおいても、そのような行為は誘拐等として刑罰の対象となることがありますので、ご注意ください。

7. 緊急連絡先

- 緊急連絡センター（警察、消防、救急等）

電話：112

ウェブ：<http://www.112.fi/>

- 内務省レスキューサービス

電話：+358-(0)71-878-0171

ウェブ：<http://www.pelastustoimi.fi/>

- ロードサービス（TIEPALVELU）

電話：0200-8080（24時間）

- 在フィンランド日本国大使館

電話：+358-(0)9-686-0200（代表）

+358-(0)9-8171-0418（緊急）

8. いざというときのためのフィンランド語フレーズ

フィンランド語は、基本的にローマ字読みにより発音することが可能です。

- 助けて！

APUA！（アプア！）

- 泥棒！

VARAS！（ヴァラス！）

- 火事だ！

TULIPALO！（トゥリパロ！）

- 警察を呼んでください！

SOITA POLIISILLE！（ソイタ ポリーシッレ！）

- 救急車を呼んでください！

SOITA AMBULANSSI! (ソイタ アンブランッシ!)

Ⅲ. 緊急事態対処マニュアル

1. 平素の準備と心構え

日頃から自分の所在（在留）を周囲の人に知らせておくとともに、非常用物資を準備しておくことが重要です。

(1) 在留状況の届出（在留届）

海外に引き続き3か月以上滞在する方は、旅券法の規定により、お住まいの国・地域の在外公館に在留届をご提出いただく義務があります。

緊急事態発生時においては、在留届に基づき、在外公館から安否、所在確認等を行うこととなります。

(2) 非常用物資の準備

旅券、現金など避難時に必要となるものは、すぐに持ち出せるように予めまとめて保管しておきましょう。

非常用の食料や水、医薬品等を備蓄しておくことをお勧めします。

2. 緊急時の行動

基本的には現地の当局等の指示に従って行動してください。平静さを失わず、事態の把握及び情報の入手に努めることが重要です。

(1) 在外公館への通報等

できる限り速やかに、当館に状況をご一報ください。

また、避難時においては、連絡手段を確保するとともに、なるべく孤立せず、集団で行動してください。

(2) 国外への退避

各自の判断により自発的に国外へ退避する場合は、その旨当館にもご連絡ください。

また、「退避勧告」がなされた場合、一般商業便が運行されている間はそれを利用し、可能な限り早急に国外に退避してください。一般商業便による退避が困難な場合、当館が主体となってチャーター便等を手配するこ

とありますが、その際には当館の指示に従ってください。

3. 緊急事態に備えてのチェックリスト

- 旅券、現金など避難時に持ち出すものの準備
- 食料、水など非常用食材の準備（10日分程度。）
- 薬、医療用品などの準備
- 緊急時における連絡先の確認（電子媒体のみではなく、紙媒体としても準備しておくことが重要）

IV. おわりに

事件や事故は、残念ながら誰の身にも起こり得るものです。まずは、事件などに巻き込まれないように最大限の注意を払う必要がありますが、不幸にして巻き込まれてしまった場合には、平静を失わないことが重要です。

また、国外旅行や国外出張される方は、たびレジに登録ください。旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。詳しくは下記のページをご覧ください。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

この手引きに関するご意見、ご質問などがありましたら、当館領事部へご連絡ください。